

IVAN THE EATER — 日本語翻訳

Ivanは屋外のキッチンにある小さなテーブルで材料を準備している。お気に入りの蝶、Igorは小さな黄色いランタンの上にとまっている。Ivanは料理本を見ながら、蝶と言い争いをしつつ、手持ちの研ぎ棒で刃を研いでいる。

IVAN THE EATER

世界のことをお前は何を知っているんだ？
お前はとても小さくて、この世界にほとんど存在していないようなものだ！

ああ、ごめん、ごめん。謝るよ。

でもお前は、本をたくさん食べているってだけで、何でも知っていると思っているんだろう。

好きなだけ本でも、メモ帳でも、記録でも食べていい。
でももしMamaの料理本を食べたら、Ivanがお前を食べる。

(蝶に向かって)間違ってる？何がそれを間違いにするんだ？
彼女が今まで何匹の四足の生き物を料理にしてきたと思う？
もし美味しくなかったら、それは間違いだったかもしれないな。

さてと：痩せた母、病気の父、醜い娘、健康な息子。

ありがとうMama！愛してるよMama。

自然じゃない？何が自然じゃないんだ？
Ivanは自然の一部だ。だからIvanがすることは全部自然だ。
Ivanは、Igorがこのことを混乱していると思う。

Ivanを責めるな。Ivanは空腹を発明したわけじゃない。命は命を食べて生きる。
何かが生きるためには、いつも何かが死ななければならない。

ああ、完璧だ。美しい。

何だ？お前は自分の方がIvanよりずっと立派だと思っているのか？
自分は花の蜜と本しか食べないからって！

IVAN THE EATER (続き)

あああ！！！！お前は気が狂っている！

Ivanの本を食べておいて、そのくせIvanに「何を食べるべきか」説教する気か！

本は、人間からできているんだ。Ivanはその人たちの体だけを食べる。

でもお前は、彼らの物語を食べ、彼らの考えを食べ、彼らの夢を食べ、彼らの魂の肉そのものを食べている。

それこそが本当の死だ。

Ivanはそこまで冷酷じゃない。でもIvanはとても腹が減っている。

だから道をあける、小さな蝶。Ivanには肉が必要だ。